

## 飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

神戸の地域SNS「ひよこむ」管理者・和崎 宏氏の講演より

### 第 247 回 世界は 6 人で繋がっている

2008. 3. 9

ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Network Service, SNS) は、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスの事である。

狭義的には、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービスと定義される。あるいはそういったサービスを提供する Web サイトも含まれる。その主たる目的は、人と人とのコミュニケーションにある。友人・知人間のコミュニケーションを促進する手段や場、あるいは趣味や嗜好、居住地域、出身校、「友人の友人」といった自身と直接関係のない他人との繋がりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供している。人の繋がりを重視して「既存の参加者からの招待がないと参加できない」というシステムになっているサービスが多いが、最近では誰でも自由に登録できるサービスも増えている。日本では mixi が有名で、会員数約 800 万人といわれている。(以上 Wikipedia より)

ネットワークとして一番効率の良い人数は、9 人というのが定説である。この 9 人のネットワークを「認知ネットワーク」という。9 人の友達が、更に 9 人の友達へ…ここまでは明らかに可視化できる範囲で「パーソナルネットワーク」と呼んでいる。このパーソナルネットワークが更に進んで、たぶん 1,000 人くらいまでのネットワーク、これが可視化された地域人脈 (ソーシャルキャピタル) として、地域内に大きな「関係性の力」を発揮することとなる。それが理想的な「ソーシャルネットワーク」である。

「関係性の力」とは足し算ではない。9+9=18 ではなく、そのバックにあるネットワークそのものの関わりが出てくる。これを紐帯 (ちゅうたい) の関係といい、ガチガチの組織ではなく、むしろユルユルの関係と言った方が当たっているだろう。我国には古来から、地域の中にこの紐帯の関係は存在した。〇〇講とか、回覧板を廻す町内会とか、祭事とか、縁と縁を結ぶ、いわゆる「結縁 (けちえん) ネットワーク」といわれるものである。

mixi が 800 万人とは、あまりにも巨大になり過ぎた感が否めない。人脈とは、基本的にはクローニングされたものである。インターネット上のホームページは、開かれ過ぎており、常に危険性が伴っている。地域におけるネットワークは、それほどオープンになる必要はない。基本的なソーシャルキャピタルがあれば、後は「関係性の力」で大きなネットワークになっていくはずである。

世界は何人で繋がっているか? こんな質問をする。例えば私がヒラリー・クリントンに会いたい…とすれば、まずそれなりの人に相談する。その人が、その人が持つ個人的ネットワークの中で誰かにお願いしてみる。そしてまたその人が…この繰り返しでいくと、6 人のネットワークで、ヒラリーさんに会えるといわれている。社会学的に言えば、わずか 6 人のネットワーク、関係性の力で世界は繋がっていると言う事になる。国内、益しては地域においては、4 人が定説。わずか 4 人のネットワークで地域が繋がっている。

地域の、人の「絆」の再構築、人と人との「関係性」の再構築、こんなところに大きなヒントがありそうだ。SNS で地域の活性化を! そんなことを今、考えてみたい。